

震災後のLNG輸入動向と2014年度下期の見通し

計量分析ユニット 需給分析・予測グループ
研究員 岩田創平

はじめに

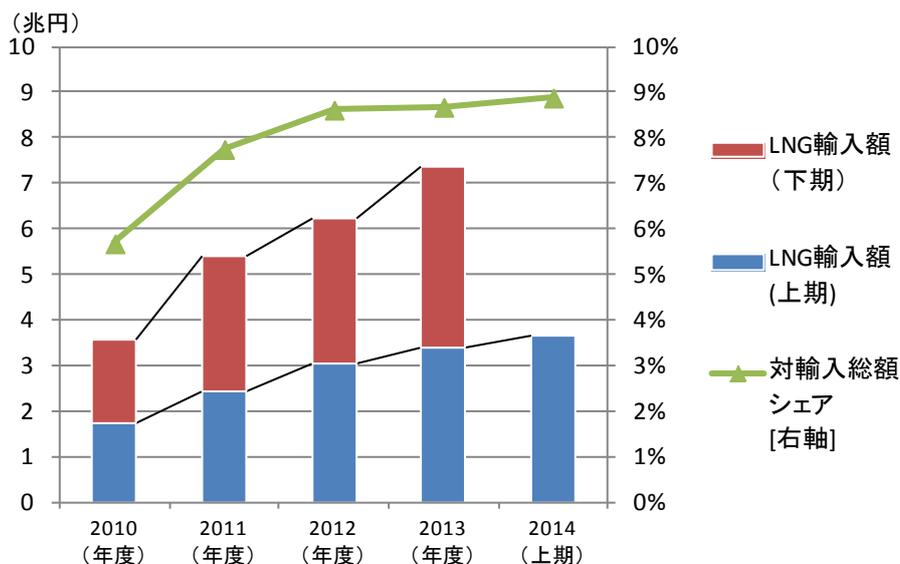
2011年3月に起きた東日本大震災に伴う原子力発電所の停止により、代替燃料となる化石燃料への依存が高まった。化石燃料の輸入増加により、震災前の2010年度に5.3兆円の黒字だった貿易収支は、2011年度には4.4兆円の赤字となり、さらに輸出の伸び悩みもあって2013年度には13.8兆円にまで赤字幅が拡大した。化石燃料の中でも、とりわけLNGは発電用需要の急増により、震災前後で輸入動向が大きく変化した。

本稿では、2010年度から2014年度上期(4-9月)までの貿易統計のデータを用いて、LNG輸入額や輸入国別の輸入量・価格の動向について考察する。

LNG輸入額

LNG輸入額は、震災前の2010年度には3.5兆円だったが、2013年度は過去最高となる7.3兆円まで膨らみ、LNGだけで3.8兆円の国富流出となった(この間、化石燃料全体では約10兆円もの国富流出となった)。2014年度上期も前年同期比で2,900億円、8.7%増の3.7兆円となるなど、LNG輸入額は年々増加している。輸入総額に占めるLNGの割合は、2010年度には5.7%であったが、2014年度上期には8.9%まで上昇している。

図1 LNG輸入額の推移、輸入総額に占めるLNGの割合

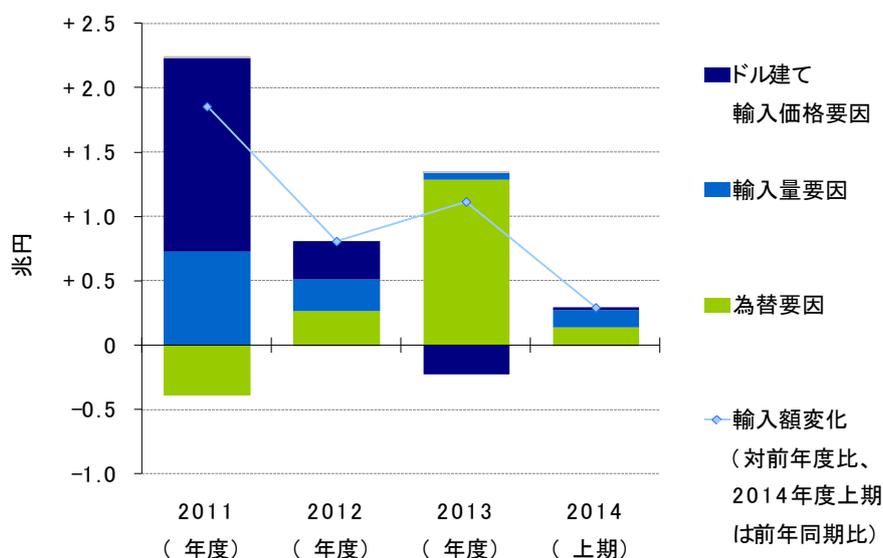


(出所) 財務省「貿易統計」

右肩上がり増加を続ける LNG 輸入額であるが、増加の要因は年度によって異なる（図 2）。2011 年度は、原油価格上昇や割高なスポット購入の増加等より、ドル建て輸入価格が前年度比 40.8%、\$4.61/MBtu 上昇するなど、ドル建て輸入価格要因の寄与が最も大きかった。同時に、2011 年度の LNG 輸入量は前年度比 17.9%、1,262 万トンも増加となるなど、輸入量要因も大きく寄与した。2012 年度は、ドル建て輸入価格要因、輸入量要因、為替要因がほぼ等しく増加に寄与した。2013 年度は、アベノミクスによる円安の影響で通関レートが前年度比 20.9%、17.3 円/ドルも円安ドル高になるなど、為替要因の寄与が大きかった。2014 年度上期はさらなる円安による為替要因と輸入量要因が寄与している。

LNG 輸入額の増加は、価格要因（ドル建て輸入価格要因、為替要因）の寄与も大きいですが、輸入量要因は毎年プラスの寄与となっている。

図 2 LNG 輸入額変化の要因分析



(出所) 財務省「貿易統計」より算出

LNG 輸入国別数量・価格

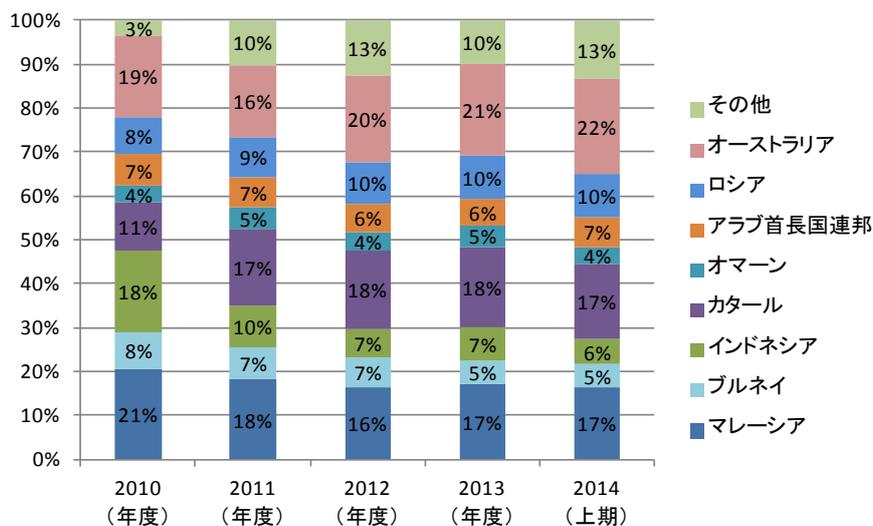
震災前の 2010 年度はインドネシア、マレーシア、ブルネイの東南アジア 3 カ国で輸入量全体の約半分を占めていた。しかし、2009 年度まで最大の輸入国であったインドネシアは、契約更新により 2011 年度以降は大幅に輸入量が減少するとともに、輸入価格は全日本平均を上回るようになった。輸入量全体に占める東南アジア 3 カ国のシェアは徐々に低下し、現在は 3 割程度となっている。

一方、オーストラリアは、新規 LNG プロジェクト（ブルート）からの輸入開始により、2012 年度以降は輸入量のシェアは 2 割を超え、最大の輸入国となるとともに、輸入価格は全日本平均を下回るようになった。

カタールは、震災後にスポットや短・中期契約の LNG 供給が急増し、2011 年度には前年度比 85%増となるなど、輸入量が大幅に増加し、2012 年度以降はオーストラリアに次ぐ輸入国となっている。

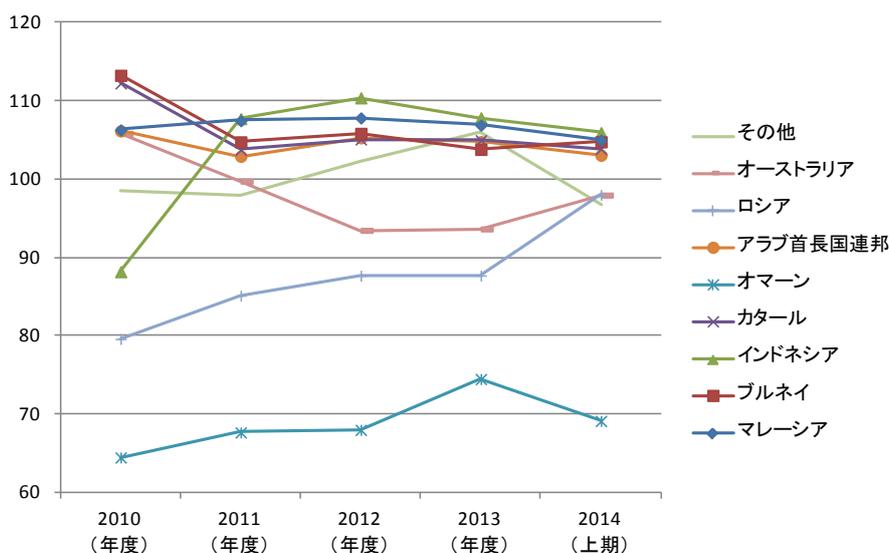
また、震災後にはスポットやポートフォリオ契約によるナイジェリアや赤道ギニアといったアフリカ等の産ガス国からの輸入も増加し、「その他」は輸入量全体の 1 割程度のシェアを占めるようになった。

図 3 輸入国別数量の構成比



(出所) 財務省「貿易統計」

図 4 輸入国別価格 (全日本平均=100)



(出所) 財務省「貿易統計」

2014 年度下期の見通し

2014 年度下期に入り、足元では為替が 110 円台まで円安が進んでおり、為替要因による LNG 輸入額の増加寄与がさらに拡大する見込みである。一方、原油価格は 80 ドル台/バレルまで急落しており、LNG スポット価格も低調であることから、ドル建て輸入価格要因は LNG 輸入額の減少に寄与すると見込まれる。また、原子力発電所の再稼働は当初の見込みより遅れが続いており、輸入量が前年度よりも大きく減少に転じることは期待できない。仮に下期の為替が 113 円/ドル、原油価格 (JCC) が 88 ドル/バレル、輸入量が前年度並みと想定した場合、下期の LNG 輸入額に対しては為替要因が前年同期比で約 4,500 億円の増加に寄与するものの、ドル建て輸入価格要因が約 3,400 億円の減少に寄与することにより、合計で約 1,100 億円の増加と試算される。その結果、2014 年度の LNG 輸入額は上期の増大が効き、前年度比 0.4 兆円増の 7.7 兆円となり、過去最高を更新することになる。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp